

土木広報センター報告

# 令和7年度 土木の日および くらしと土木の週間 報告

コミュニケーション部門 主査理事

木村 嘉富 (二財) 橋梁調査会 専務理事)

土木広報センター センター長

小松 淳 (日本工営ヒジネスパートナーズ(株) 経営管理本部 チーフエンジニア)

11月18日の「土木の日」から続く土木学会の創立記念日である11月24日までの1週間を「『土木の日』および『くらしと土木の週間』」として、土木学会本部・全国8支部では、一般の皆さまを対象とした各種イベント、活動を展開しております。

令和7年度は、全国規模で企画・実施され、盛会のうちに終了しましたことをここに報告いたします。

1987年11月18日に「土木の日」を制定してから、38年を迎えました。各支部や各関係団体の多大なご協力を賜り、「土木の日」が全国的に浸透してまいりました。土木広報センターとしても、一般の方々に社会資本の重要性を認識していただけるよう継続していく所存

です。今後とも多くの方々のご理解やご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。また、ご尽力いただきました多くの皆さま方に心からお礼申し上げます。

## 本 部

土木学会本部では、関係団体のご協力を賜り、「土木の日」および「くらしと土木の週間」期間を中心に、各メディアへの情報発信、「土木の日ロゴマーク」の活用、土木の日関連行事の開催など、各種取り組みを実施した。

メディアへの情報発信として、スポーツ紙への「土木の日」広告掲載(イラスト:漫画家 羽賀翔一氏)、建設紙への「土木の日」会長挨拶文の掲載、SNSを用い



オープニングセレモニーの様子(「土木の日パネル」と共に撮影)

た発信などを行った。

また、「土木の日ロゴマーク」を用いたフライヤー、パネルの制作、土木の日グッズ(ステッカー、風船など)を積極的に配布した。

土木の日関連行事としては、本年度も「土木コレクション」を開催した。土木コレクションでは、土木界が保有する歴史的資料や図面、写真など、普段目にすることができない各種コレクションを展示、公開している。昨年度に続き、新宿駅西口広場イベントコーナーで開催し、11月20日(木)から22日(土)の3日間に約4万2000人が来場した。初日の11月20日(木)には、オープニングセレモニーを実施し、関係者や報道機関を含め、約



各コンテンツを鑑賞する人たち

110人が参加した。

今回の土木コレクションでは、会場を四つのゾーンに分け「ダム」「昭和100年および台湾土木遺産」「渋谷駅改良工事」「首都高速道路」をコンテンツとして展示、公開した。

コンテンツの一つ目「ダム」では、ダムの歴史や構造の違いを紹介し、全国各地のダムカードを一挙公開する「ダムカード横断幕」を展示した。普段は現地で見ることができないカードを一挙に見られるとあって、多くの来場者が足を止め、カードの種類の高さや、統一されたカードデザインの中にも写るダムの姿がそれぞれ異なる点に関心を寄せていた。さらに、首都圏の暮らしを支える八ッ場ダムの役割を



黄色で統一した会場デザイン



受付周り



カプセルトイを回す池内会長



スタッフの集合写真

詳しく紹介し、建設時の写真や動画、模型、旧吾妻線のレールを展示、ダムと地域の歴史を深く知る貴重な機会となった。

二つ目は「昭和100年および台湾土木遺産」と銘打って、昭和の歩みと台湾に息づく日本の土木遺産を一体的に展示した。会場では、1923年の関東大震災から始まる復旧、戦後復興、高度成長期を経て現在に至るまでのインフラの変遷を年表と図表でわかりやすく整理した。さらに、昭和時代を代表する土木遺産として、青函トンネルのタペストリーや貫通石を展示し、建設の歴史とその規模の大きさを来場者に伝えた。また、台湾に残る日本統治時代の土木遺産である八田與一が整備した嘉南大圳と増田淳が

設計した曾文溪水路橋について、資料を通じて日本の土木技術が海外でも生かされていることが特別参加の台南市関係者によって示された。

三つ目の「渋谷駅改良工事」の展示では、「100年に一度」と言われる渋谷駅周辺の大規模再開発の状況をパネルで紹介した。パネルに加えて工事時の写真や動画も展示し、複雑な構造を持つターミナル駅で行われた作業の様子や、駅機能を維持しながら段階的に進められた工事の過程を視覚的に振り返ることができる内容とした。

四つ目の「首都高速道路・日本橋区間地下化事業」は、昨年度に続き、東京・日本橋川の上空を走る首都高速道路を地下

化する取り組みをパネルや模型を用いて解説した。都心環状線の機能確保のために整備される新京橋連絡路についても展示し、来場者は担当者の説明に熱心に耳を傾けていた。

会場デザインは、新宿での土木コレクションのテーマカラーである黄色で統一し、昭和100年の節目と現在進行中の事業の躍動感を重ね合わせ、重機をモチーフに土木の力強さを表現した。会場内では、アンケート回答者へのグッズ配布として恒例となったカプセルトイが今回も好評を博した。展示コンテンツの写真を使用したトレーディングカードも新たな公式グッズとして注目を集め、来場者が楽しみながら展示に触れられる工夫

となった。さらに、前回より精巧な作りとなった模型の内部を電池式鉄道玩具が走行する仕掛けが人気を集め、会場のにぎわいを高めていた。

なお、本年度の土木コレクションもこれまでと同様、東京都建設局との共催であり、「東京橋と土木展（東京都建設局主催）」との同時開催であった。「東京橋と土木展」では「橋の魅力を知る」をテーマに、写真、動画、模型、浮世絵、図面などの多彩な展示が行われていた。今後とも土木コレクションへの来場者の皆さまとの交流の経験を生かし、より多くの人に土木の魅力を伝え、土木をより身近に感じていただけるよう、さまざまな企画を展開していきたい。

## 北海道支部

北海道支部では札幌、北見、苫小牧、室蘭、函館において、関係機関の協力のもとにさまざまな「土木の日」関連行事を実施した。

各地区では、大学、高専にご協力いただき、さまざまな行事を開催した。北見工業大学で「おもしろ科学実験」、苫小牧では小学生および保護者を対象に「馬追橋現場見学会」、函館では函館高専祭での「土木技術体験講座」、室蘭地区では室蘭工業大学などが協力のもと、「知利別川環境学習体験フェスタ2025」など、工夫を凝らした行事を実施した。

8月6日に「親子で行く土木の現場めぐりバスツアー」を開催し、北海道新幹線、札幌車両基地高架橋工事と新千歳空港誘導路複線化事業の現場を参加者に体感していただいた。かねてより希望の多

知利別川環境学習体験フェスタ2025

記念講演会では、「脱炭素と地域の取り組み ～土木の役割～」として、北海道大学の石井一英教授より、「次世代エネルギーの取り組み（水素、アンモニア、CCUSなど）」の最新情報について、北海道電力（株）の名兒耶大輝氏よりご講演いただいた。



親子で行く土木の現場めぐりバスツアー

かった空港では、遺跡の発掘現場や除雪車の見学も行い、充実した会となった。

さらに11月16日～17日にはチカカにて「イブニングシアター」、11月18日には土木遺産認定書授賞式・土木の日記念講演会が札幌市内のホテルで開催された。

## 東北支部

土木学会東北支部では、「土木の日特別行事」の一環として2004年度より、東日本大震災・自然災害をテーマとして「防災に関するシンポジウム」を開催している。

本年度は、1月21日（水）に仙台国際センターで、「防災に関するシンポジウム ―災害査定のこれまでとこれから―」と題して開催した。

シンポジウムでは、はじめに国土交通省水管理・国土保全局防災課の岩井聖防災政策調整官から、災害査定最新の状況や政策・取り組みについて基調講演



防災に関するシンポジウム①

をいただいた。続いてパネルディスカッションでは、東北大学災害科学国際研究所の佐藤翔輔准教授をコーディネーターとして、令和6年7月に発生した山形県北部豪雨災害を例に、当時、災害査定に取り組んだ行政・民間の3人の方をパネラーに迎え、大規模災害が多発する中で災害査定最新の状況や課題、官民連携・受援体制の工夫、効率化などについて議論した。

今回のシンポジウムを通して、早期確認型査定や簡素化査定の特長・デメリットなど、災害査定の実際を参加者で共有、それを踏まえた今後の災害査定について考える機会となった。



防災に関するシンポジウム②

## 関東支部

関東支部では、関係機関の協力のもと「土木の日」の関連行事を実施した。

現場見学会は、東京都下水道局と鹿島建設(株)のご協力で、「東京都下水道局江東ポンプ所 江東系ポンプ棟建設工事」現場を見学した。また、子どもたちに土木技術のすばらしさを紹介するための親子見学会は、最初の「荒川第二・三調節池工事」の見学で、クイズを交えながら荒川で治水事業が進められてきた経緯や工事概要、排水門の洪水時の作動方法や、貯留水を本川へ戻す際の仕組みについて学んだ。次の「荒川知水資料館」では、荒川の治水の歴史や河川改修の意義を理解できる展示に加え、自然環境について学び、災害対策支援船「あらかわ号」に乗船し、水



現場見学会(東京都下水道局 江東ポンプ所建設工事)

の上から荒川を体感した。土木と

いう仕事の大切さと親しみを持っていただけよう、今後

見学会を企画していく。

本年度も会員交流促進の一環として「土木のある風景」写真コンテストを開催し、12月12日より募集を開始した。3月の関東支部技術研究発表会で会場展示し、ご来場の方からの投票でそれぞれの賞が決定される。入賞作品は、カレンダーおよびウェブサイトに掲載される。

また、関係団体にご協力いただき「技術研究所見学会」を実施し、近所の小学校の児童に建設業の役割や新技術開発の取り組みなど、土木技術に触れて楽しい時間を共有した。

関東支部には、新潟・山梨・群馬・栃木・茨城の五つの分会があり、各分会において記念講演会(動画放映含む)、土木遺産の見学会など各種イベントを実施し、土木工学のイメージアップと市民生活との関係の周知に活発に取り組んでいる。



親子見学会(災害対策支援船「あらかわ号」)

## 中部支部

中部支部では、関係機関の協力をいただき、「土木の日」のポスターを製作し、関連行事を10月から11月にかけて実施した。

土木に対し一般市民の関心を高め、親しみを持ってもらい、土木施設の役割と必要性を理解してもらうことを目的に「市民見学会」、「親子ふれあい見学会」を開催し、多数の応募者から抽選で選ばれた方に参



市民見学会



親子ふれあい見学会

加いただいた。「市民見学会」では、「富山のどほく発見!! ツアー」というテーマで「立山カルデラ砂防博物館」、「富山駅付近連続立体交差事業」などを38人に見学いただいた。「親子

ふれあい見学会」では「土木の魅力を体験」というテーマで、普段は立ち入ることができない長野県のトンネル工事現場や「久米路峡」、「岡田川排水機場」などを42人の親子に見学していただいた。参加者のアンケートでは「普段見ることができない所を見られて、貴重な体験ができ良かった」などの感想を多くいただきました。大好評で土木への関心を高めることができました。

中部支部では、この他にエクスカージョン(体験型見学会)として小中高等学校の教職員、教育学部や理工学部の大學生を対象にダムなどの土木施設の見学会を開催し、「情報も築く土木へ」というテーマで土木技術者と学生の交流会を実施し、土木の役割、重要性などを認識していただき、将来の担い手の育成を図っている。また、「選奨土木遺産のパネル展示」などを行い、土木および土木学会の認知度向上に努めている。



2025年度「土木の日」ポスター

## 関西支部

関西支部では、「土木の日」および「くらしと土木の週間」の活動として、「土木の日」関連行事関西地区連絡会の主催でさまざまな企画（連絡会行事）を実施した。

「土木の日」広報ポスター制作では、「さがしてみよう！ みんなのまちのステキなところ」など「道・鉄道・港・河川・空港・エネルギー」をテーマに図案の募集を行った。関西圏を中心に広く呼びかけを行った結果、子どもから大人まで幅広い世代から、身近にある「ステキ」な土木を自由な発想で表現した作品が多数寄せられた。作品には、地域の風景や暮らしと密接に結びついた土木が描かれており、土木が人々の生活に根付いている様子が感じられる内容となっていた。



2025年度「土木の日」ポスター



作品展示の様子

審査の結果、応募総数278点（子供部門〈小学生以下〉168点、一般部門〈中学生以上〉110点）の中から、中村

花音さん（桜井市立桜井西中学校）の作品が最優秀賞に選ばれた。同作品は、「土木の日」関連行事の広報ポスターとして活用され、関係機関や地域において広く掲示されることで、土木の魅力発信に大きく寄与した。最優秀賞の他、優秀賞・入選など計20点が選出された。

全応募作の縮小コピーは建設技術展2025近畿（10月30日～31日開催）の会場入り口付近に展示され、多くの来場者の目に触れた。

さらに「土木の日」関連行事として、現役高校生、高専生らを対象に「コンストラクション甲子園 第1回関西大会——高校生建設業クイズ選手権——」を2026年1月25日に開催した。

## 中国支部

中国支部では、令和7年7月26日（土）に、鳥取県倉吉市にて「どぼくカフェ&土木ツアー」を実施した。第1部は、京都大学の高橋良和先生から「大きな機械が活躍するドボクの世界！」と題して、世界のいろいろな働く重機についてお話を聞いた。その後、「海中トンネルの作り方」や、「大きい重機たちは、どうやって現場までくるのか」など、参加者から寄せられた土木の不思議な疑問について回答した。第2部は、「夏休みだ！探検だ！工事現場の中を見てみよう!!」と題して、山陰道の北条ジャンクション（仮称）を見学した。ヘルメットやハーネスを装着して高所作業車に乗り、青空の下、北条ジャンクションの全景を堪能し、



どぼくカフェの様子



土木ツアーの集合写真



土木ツアーのVR体験の様子

ボルトの締め付け体験や、工事の様子を再現したVR体験などさまざまな体験をし、四足歩行ロボットを操作して最新の技術に驚いた。

その他、第18回「身近な土木を描いてみよう！」図画コンクールを実施し、中国地方各地の小中学生から応募された688枚の中から、優秀賞13点と佳作50点を選考した。優秀賞は各地で表彰式を実施し、入賞作品の展示も行った。また、優秀賞13点を掲載した2026年のカレンダーを作成し、優秀賞者や、応募された学校に参加賞とともに郵送した。



図画コンクール表彰式



図画コンクール展示（広島）

## 四国支部

四国支部では「土木の日」関連行事を一般市民や小中高校生を対象に四国各地で実施した。

支部行事として、11月21日に松山市「アイテムえひめ」小展示場において、「土木の日記念行事」を実施した。はじめに、選奨土木遺産に選定された「波節岩灯標」（香川県丸亀市）の管理者である高松海上保安部の小谷次長を招き、認定書を授与し銘板を贈呈した。その後、名古屋大学減災連携研究センターの武村雅之氏による演題「関東大震災から学ぶ街づくり」地方も一蓮托生、首都東京の失敗」で特別講演を行った。11月10日から5日間、高松市香川県庁ギャラリーで、「四国の土木コレクション&土木遺産パネル展」を開催した。11月29日に一般公募した参加



選奨土木遺産認定書授賞式



バスツアー（本川発電所見学）



バスツアー（早明浦ダム見学）

者34人による、「早明浦ダム・本川発電所見学バスツアー」を実施した。本川発電所は四国電力が管理する揚水式発電所で、地下の発電施設を見学した。早明浦ダムは四国の水がめといわれる多目的ダムであり、現在、治水機能を向上させる再生事業を行っている。ダム堤体に放流管を通す工事現場では、堤頂から50m下の放流口を見下ろして感嘆の声があがった。参加者からは普段目にすることのない発電施設やダム仮締切設備に触れ貴重な体験だったと伺った。

地区行事では、四国各県において小学生、工業系高校、高専生を招いた現場見学会を実施した。また大学・高専公開行事として、パネル展示や小中学生を対象として科学実験体験を実施し多くの参加をいただいた。

## 西部支部

西部支部では、本年度も各地区でイベントが開催された。

福岡地区では、10月5日に国営海の中道海浜公園で「土木の日ファミリーフェスタ2025」が開催され、約5200人の来場者でにぎわった。

佐賀地区では、11月1日に佐賀商工ビル（佐賀市）で、「土木フェア2025」が開催された。はたらく車展示、液状化実験、パネル展などが行われ、家族連れなど延べ約1100人が体験・見学された。

長崎地区では、「DOVOCフェア2025」として、11月8日に長崎大学教員キャンパスで「土木おもしろ体験隊」が、11月9日に県内各地で「土木現場見学会」が、また、11月15日に長崎市浜町で「浜町パネル・模型展」が、それぞれ開催された。

宮崎地区では、11月8日～9日にイオンモール宮崎で「宮崎県「土木の日」パネル展」が、12月19日に宮崎市内で「小学生を対象としたミニ講義&現場見学会」が開催された。

鹿児島地区では、11月22日に天文館ぴらも〜るなどで「土木フェスタ in 天文館 2025」が開催された。パネル展示、ミニシヨベル操作体験、高所作業車

土木の日 11月21日

土木の日 11月21日

土木の日 11月21日

沖縄の土木技術の世界に発信する会シンポジウム（沖縄地区）

土木の日 11月22日

土木の日 11月22日

土木の日 11月22日

土木フェア in ぴらも〜る・天文館本通り 2025（鹿児島地区）

土木の日 10月5日

土木の日 10月5日

土木の日 10月5日

土木の日ファミリーフェスタ2025（福岡地区）

体験などが行われ、家族連れなど延べ約4000人が体験・見学された。

沖縄地区では、11月21日にタイムスホール（那覇市）で、沖縄の土木技術を世界に発信する会第30回シンポジウム「沖縄の交通課題解決に向けた取り組み」県民生活と沖縄観光を支える交通インフラ」が開催され、129人の方々が参加された。